

『父ちゃん！救命胴衣つけたや？』

昨年4月から、航行中の漁船に一人で乗船して漁ろうに従事している場合、救命胴衣の着用が義務化されたことを受け、2月4日(水)、東串良漁業協同組合女性部（隈元和代部長）が、漁船での救命胴衣着用100%を目指そうと、ライフジャケット着用推進員『ルピナス隊』を結成し、委託式が行われました。

式では、東串良漁協職員が「積極的にライフジャケットを着用するよう声かけを徹底していきたい。」と決意表明し、志布志海上保安署長が「救命胴衣を着用すれば、もし事故に遭遇しても助かる確率が極めて高くなります。ルピナス隊の結成で事故が起こらないことを期待します。」と話されました。



『キジのように空高く！曾於地区植樹祭』

2月7日(土)、大丸改善センター前で曾於地区植樹祭が開催され、林業に携わる関係者など多くの人が大崎町を訪れました。

式典は、町高校生クラブと町青年団による太鼓の演奏で始まり、各種褒賞授与や、これからの林業の担い手となる若者によるスローガンの宣言などが行われました。

その後、マテバシイとシマトネリコの広葉樹2種21本と松の苗木450本が参加された人達の手によって植えられ、最後にキジ20羽が緑の少年団の子ども達によって放鳥され、今から育つであろう植樹された木のように空高く舞い上がり、大きな歓声が上がっていました。

『選手を後押しする数多くの声援！』

駅伝大国鹿児島県。今年も12地区から選ばれた猛者たちによる第56回県下一周駅伝競走大会が2月14日から18日までの5日間で開催され、鹿児島路に赤や黄の旗が振られた。

総合3位でスタートした曾於は、5日間の中で一番の難所として知られる一区『心臓破りの亀割峠』で区間新のスタートダッシュを決めると、10区間中4区間で区間賞（うち2区間で区間新）の力走を見せ、日間準優勝で総合2位にあがった。

小学校や中学校が立ち並び国道220号沿いを走る4日目第8区は、大会に参加する選手が一度は走ってみたいと思うコース。生徒児童や地域住民など数え切れないほどの人が応援に駆けつけ、力走する選手に惜しみない声援が飛び交っていた。

